

学校教育目標	よく考え よく気づき やりぬく子供の育成	経営理念	児童と教職員が地域とともに楽しい学びを創造し、将来にわたって学び続ける人材を育てる —三津で学んでよかったと実感できる学校—
--------	----------------------	------	---

評価計画						自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値	達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月						
確かな学力	1	自ら考え自ら表現する児童の育成	1 探究課題の解決に向けて主体的・協働的に取り組む授業の創造	地域貢献型の総合的な学習の時間、生活科の実践 ・主体的・協働的な学びを充実させるために、年3回ICT活用研修を行い、授業者の指導力向上をめざす。 ・単元構想図の作成	児童アンケート「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。」児童の割合85%以上	85%	80%	3	3	昨年度作成した単元構想図を元に改善をしながら、地域貢献型の総合的な学習の時間、生活科の授業実践研究に取り組んでいる。ICT等を活用し、児童の主体的・協働的な学びにつながる授業改善が必要である。	A	個々の児童の学力に差があるのは仕方ないのではないかと、しかし、字を丁寧に書くことや発表の仕方などは学びへの意識の問題だと思うので、しっかりと指導していただきたい。 児童が授業中先生の話を集中して聞き、しっかり考えている姿が見られた。一方で、金曜日だからなのか、児童に元気がないように感じた。 教室がゆったりしていて良い。電子黒板の使い方も良い。	児童の学びが主体的・協働的な学びにつながるよう、地域人材(ゲストティーチャー)との連携をさらに深めながら、来年度に向けて単元構想の改善を図る。教職員のICT活用研修を計画し、さらに児童が意欲的に学習に取り組めるようにする。
			2 学びの基礎の定着	・学力検査の分析に基づき、PDCAサイクルで基礎学力向上に取り組む。 ・スキルタイムにおいて、計算問題・漢字の書き取り・文章を読み取る問題等バランスよく取り入れ、思考力を計画的に高める。	学力検査の結果を全国平均以上にする。(6月・12月)	100%	63%	1	1	6月に実施したNRTについては、教科によって、全国平均に達していない学年があった。全国学力・学習状況調査においては、国語・算数ともに全国平均以上であった。全校の傾向として、国語では「話す・聞く(話し合い、提案他)」「読む(要旨の読み取り)」、算数では「数と計算(式の読み取り他)」「測定・データ(表とグラフ他)」が課題である。	A	学年や個々の課題に対応した授業改善を行うとともに、スキルタイムの改善を行い、基礎学力をさらに向上させる。	
豊かな心	2	自他を尊重する豊かな心の育成	3 互いに相手を思いやり、尊重できる人間関係作り	縦割り班活動を充実させる。 ・全校遊び、縦割り班掃除、児童会活動で、関わりや役割を意識させる	児童アンケート「縦割り班活動の中で協力して活動していることで自分や友達の良さを感じることでできる児童85%以上	85%	93%	3	3	毎週月・水・金の縦割り班掃除では、高学年を中心に、ほとんどの班が協力して頑張っている。教職員の支援が必要な班もあり、担当職員が掃除の仕方の指導をしたり児童と一緒に掃除をしたりすることで達成感を持たせるようになってきた。後期は縦割り班での草取りや全校遊びにも取り組み、活動を充実させていく。	A	朝の登校時などでは、挨拶することができているようだが、普段、家に遊びに来たときなどは、挨拶が無いことがある。児童が自然に挨拶ができるようになっていきたい。 近所の児童は、よい挨拶をしてくれている。	縦割り班掃除については、引き続き担当者の職員が指導をしたり一緒に掃除をしたりすることを続けていく。また、児童会と連携をして全校遊びにも取り組み、縦割り集団の関わりを充実させていく。
			あいきつリーダーの育成 ・放送や集会などを活用し、あいきつについて呼び掛けるなど、活動を強化する。 ・関係者アンケート(回答者:児童、教職員、見守りボランティアなど)により、あいきつ名人を表彰し、活動への意欲を高める。	地域や学校で気持ちのよいあいきつや返事をしている児童80%以上	85%	児童89% 保護者89%	3	3	6月に放送委員会で「きらきらあいきつBOX」の取組を行った。そこでは、児童の相互評価により、気持ちのよい挨拶ができている人や言われてうれしかった挨拶を校内放送で紹介した。また、登校指導で挨拶が良い児童や登校班も紹介した。これらの取組は、児童の意識や動機づけにつながったと思われる。児童や保護者は地域でもあいきつを頑張っているという思いを持っているが、声の大きさを進んで挨拶をするなど、引き続き指導していく。	B	12月の生活目標と関連させて、児童会を中心に「あいきつ名人」の取り組みを行い、意識や意欲の向上につなげる。 また、下校時の挨拶の言い方を含め、朝会や下校時に全体の場で指導を取り入れる。		
健やかな体	3	調和のとれた運動能力の育成	4 基本的な生活習慣の大切さを理解し、自分の健康について考える態度の育成	保健指導や保護者啓発をして、基本的な生活習慣の定着に取り組む。 ・基本的な生活習慣アンケートを年3回実施する。 ・アンケート結果をもとに個人懇談会で話題にする。	基本的な生活習慣アンケート早起きをする児童の割合75%以上	75%	82%	3	3	養護教諭と連携した保健指導、保護者啓発、課題のある児童に対しては個人懇談会で話題にすること等、基本的な生活習慣の定着に取り組んだ。 基本的な生活習慣アンケート結果から、児童が起床時刻・就寝時刻を設定し早寝・早起きに取り組むことができている。	A	引き続き、早寝・早起きの大切さを児童や保護者に伝えていくことで、基本的な生活習慣の更なる定着に向け、取り組んでいく。	
			5 自分の体力について、主体的に高めようとする態度の育成	主体的に運動に取り組むことでできるようにする。 ・外遊びを奨励する。(外遊び強化週間、委員会による働きかけ、アンケートの実施) ・体育等において自己記録の伸びを意識させる。	外遊びをする児童の割合85%以上	85%	78%	3	3	基本的な生活習慣アンケート結果から、全体で78%の児童が外で遊んでいるが、学年や個人より差が見られた。後期は引き続き、体力づくりにもつながる外遊びの大切さを伝えたり、学級遊び、全校遊びを設けたりするなど、やり方を工夫する。	A	3回目の基本的な生活習慣アンケートをすることで、児童が起床時刻・就寝時刻を設定し、目標をもって早寝・早起きに取り組むことができるよう働きかける。	更に体力づくりにもつながる外遊びの大切さを伝える。また、学級遊び、全校遊びを設けることで、外遊びの機会を増やす。
			6 コミュニティ・スクールの推進	学校支援ボランティア制度を確立・学習支援・環境支援・安全支援他 ・コミュニティ・スクール連絡会を月1回実施(地域協働活動推進員) ・コミュニティ・スクールだよりの発行(年3回以上)	保護者アンケート「本校がコミュニティ・スクールを推進することを知っている」肯定的評価80%	80%	60%	1	1	水泳の学習で最初の記録を更新する児童の割合が100%となり、目標を達成できるような個々の児童に応じた指導・支援することができた。持久走の学習においても児童に目標を持たせて努力できるよう指導・支援する。	A	インフルエンザ・コロナへの感染が心配である。感染症対策をしっかりとてほしい。罹患するのは仕方ないが、広がらないように徹底してほしい。 目標をもって水泳の学習に取り組んでよかった。後期は持久走がある。目標をもって取り組ませてもらいたい。	引き続きロゴマークを入れたコミュニティ・スクールだよりを発行していく。また、学習ボランティアとして、地域学校協働活動への参加できる機会を増やし、コミュニティ・スクールへの理解を進めていく。
信頼される学校と働き方改革	4	学校・地域・保護者が一体となって子供を育てる学校づくり	7 教職員が健康で何でも言い合える風通しのよい職場づくり	・ベア学年の有効活用(OJT、情報共有、交換授業) ・ICTなどを活用し業務の効率化・効率的な会議の実施	教職員アンケート「子供と向き合う時間が確保できている」肯定的評価85%以上	85%	91%	4	4	91%の教職員が「子どもと向き合う時間の確保できている」と回答している。ICT支援員の協力も得ながら、業務の効率化を進めている。	A	今後地道に活動を進め、コミュニティ・スクールへの理解を深めていきたい。 教職員の多忙化による働き方改革についても理解している。	効率的な会議の実施や行事、日課の見直しなどを進め、学級事務等に充てる時間を確保し、子供と向き合う時間を確保していく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価(前期時点)
 4...目標を上回っている(+10%以上) 3...目標どおりに達成している(±9%未満)
 2...目標をやや下回っている(-10%以上) 1...目標をかなり下回っている(-20%以下)

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)
 A...とても適切である B...概ね適切である
 C...あまり適切でない D...全く適切でない
 (N...判定できない)